

「人を中心としたオートメーション」の探求を通じて、持続的な社会の発展に貢献できる企業集団を目指します。

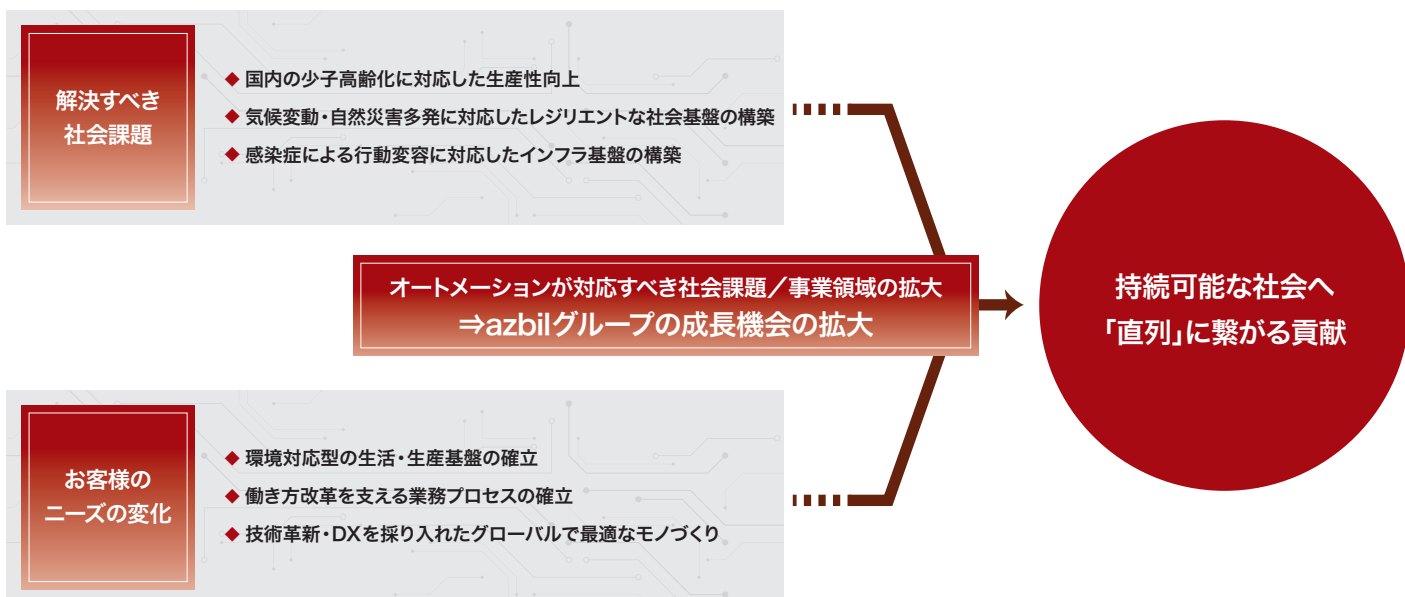
私たちは、1906年の創業以来、計測と制御の技術を追求し、独自のソリューションをお届けしてまいりました。2012年4月には、社名を株式会社山武からアズビル株式会社に変更しました。おかげさまでたくさんの方々から親しんでいただけるようになった azbil ブランドのもと、グローバルで「ビルディングオートメーション」「アドバンスオートメーション」「ライフオートメーション」の3つの事業を推進し、お客様を中心に、オフィスや生産の現場、生活といった様々な場面で“azbil グループならではの”の価値提供を目指しています。

昨年来、新型コロナウイルス感染拡大による世界的な経済活動の停滞という厳しい局面が継続していますが、中長期的には、オートメーションに求められる役割はますます広がるものと考えています。グローバル化の進展や社会の持続的成長への貢献に対する責任遂行といった事業環境の変化、技術革新、少子高齢化の進行や働き方改革の進展、気候変動への対応等に加えて、

新型コロナウイルス感染拡大を契機とするリモートワーク、BCP（Business Continuity Plan - 事業継続計画）等への対応は、オートメーションで対応すべき課題領域の更なる拡大をもたらすものと思われます。こうした変化を、azbil グループとしての事業機会と捉え、グローバル展開や事業領域における取組みをさらに推進し、成長を加速させてまいります。

AI・各種センシング技術など先進技術を活用した製造現場の安全と生産性、価値向上に貢献する新たな商品・サービスの提供や建物・地域社会での環境エネルギー課題解決による事業拡大、そのための事業・企業基盤の更なる強化等を通して、グループ理念に通じるSDGs（Sustainable Development Goals - 持続可能な開発目標）への取組みを推進し、「人を中心としたオートメーション」の探求を通じて持続的な社会の発展に貢献できる企業集団を目指します。

持続可能な社会づくりへの貢献





azbil
アズビル株式会社

代表取締役会長 執行役員会長
曾禰 寛純

代表取締役社長 執行役員社長
山本 清博

創業者精神

「人間の苦役 からの解放」

DNA
を原点として。

azbilの歴史は、創業者の「人間を苦役から解放したい」という志から始まりました。以来、azbilグループは時代の要請やお客様ニーズの変化に対して、常に原点を忘れることなくイノベーションを積み重ね、2006年には創業100年を迎えました。

1906

工作機械の輸入商社 「山武商会」を設立

azbilグループの歴史は1906年、山口武彦の「人間を苦役から解放したい」という志の下に設立された工作機械の輸入商社「山武商会」に始まります。その後、山武商会は工業計器の取扱いを開始し、工作機械及び計器の製造販売を行うメーカーへと転身、自動調節弁の国産化にも注力しました。オートメーションの必要性を理解し、いち早く事業化した山武は、戦後復興期から高度成長期に至る日本の産業界の発展に貢献しました。



創業者・山口武彦

1978

「Savemation」を掲げて 省エネ社会に貢献

1953年、山武は当時世界最先端の計測・制御技術を有していた米国ハネウェル社と50:50の資本提携を実施し、1956年に「山武ハネウェル計器」へと社名変更。総合オートメーションメーカーとしての歩みを開始し、大型建物の空調制御や石油化学プラントのプロセス制御などを通じて日本の高度経済成長に貢献しました。また、1973年の第一次石油危機の際には、省エネルギー、省力を求める社会の要請に応える様々な製品・サービスを開発。1978年には新たな企業理念として「Savemation」を制定。オートメーションを通じて地球環境保全に繋がる省資源・省エネルギーに積極的に応える企業姿勢は多くのステークホルダーから高く評価されました。



日本の産業の発展とともに成長

2006

azbil ブランドで 「人を中心とした オートメーション」を提唱

1998年にハネウェル社と提携関係を見直し、2002年に資本関係を解消、2006年に創業100周年を迎えた「山武」は、新たなグループ理念「人を中心としたオートメーション」を打ち出しました。これは、長年培ってきた高度な計測・制御技術、エネルギーマネジメントに関する技術とノウハウを基盤に、オフィスや工場、家庭で過ごす人々の「安心・快適・達成感」と「地球環境保全」の実現を通じてサステナブルな社会に貢献するという企業としての意志表明でした。

グループ理念

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

azbil

azbil の意味

automation・zone・builder

オートメーション (automation) の技術によって、グループ理念のキーワードである安心・快適・達成感のある場 (zone) を実現 (build) することを表しています。

次の100年へ。 オートメーション による新たな 価値創造を追求。

azbilグループは、創業の精神を進化させながらグループ一体で新たな価値創造に挑戦し続けていくために、2006年に新たなグループ理念「人を中心としたオートメーション」とグループシンボル「azbil」を制定。続いて、2008年グループ名称を「azbilグループ」に変更。2012年には、社名を「山武」から「アズビル」に変更しました。

2012

持続的成長に向けた 「3つの基本方針」を策定

azbilグループは2012年、事業環境の変化やグローバルな社会課題、お客様のニーズに迅速に対応しながら持続的に成長していくために「3つの基本方針」を定めました。この方針の下、2ステップの中期経営計画（2013～2016年度、2017～2019年度）を策定し、景気サイクルの異なる3つの事業、「ビルディングオートメーション（BA）事業」「アドバンスオートメーション（AA）事業」「ライフオートメーション（LA）事業」の各事業において、事業の選択と集中、組織改革、収益力強化、グローバル展開、人材育成など各種施策を展開。経営基盤を強化し続けてきました。

この結果、顧客の建物や工場のライフサイクルに沿った事業比率が向上するなど、収益力が大きく強化されました。また、成長のエンジンとなるグローバルな事業基盤整備のほか、財務基盤の強化、危機管理体制の整備やコーポレート・ガバナンス体制の強化が進みました。

■ 3つの基本方針

技術・製品を基盤にソリューション展開で
「顧客・社会の長期パートナー」へ

地域の拡大と質的な転換で
「グローバル展開」

体質強化を継続的に実施できる
「学習する企業体」を目指す

2020

持続可能な社会へ 「直列」に繋がる 貢献を開始

地球温暖化の影響顕在化や 2020 年には新型コロナウイルスによる行動変容が進み、サステイナブルな事業・地球環境・社会への関心がかつてなく高まりました。このことは、計測・制御の技術と現場の知見を活かした高い生産性と、快適で安全・安心な空間の実現を、資源・エネルギー消費を最小限に抑えながら、長期にわたって維持していくことが今後ますます多くの場面で求められるということであり、オートメーションの役割が拡大し、その価値が向上することを意味しています。そこで azbil グループは、IoT、AI、ビッグデータ、クラウドなどの最新技術を活用してオートメーションの対象領域と制御範囲をさらに拡大するなどオートメーションによる課題解決力を高め、新たな価値創造の追求を加速させています。

azbil グループは、オートメーションに求められる役割の拡大にお応えし、社会やお客様の抱える課題への解決力を高めることで、事業を通して持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を目指しています。このため、企業理念から社

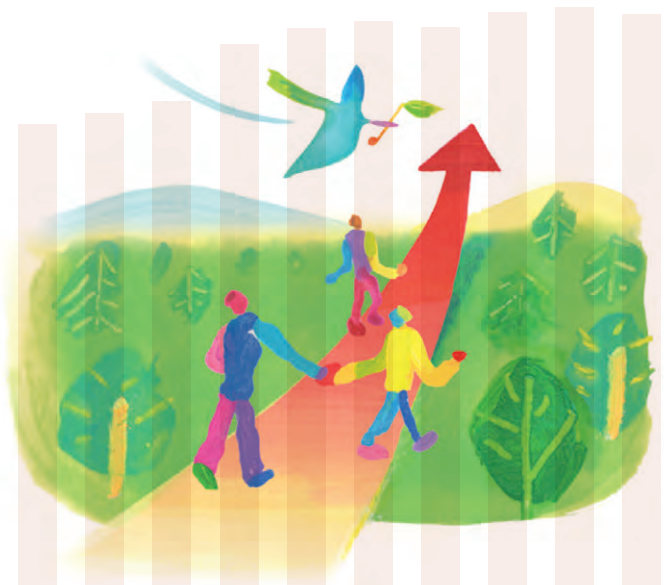
員一人ひとりの行動、経営戦略の実行までを直列化し、持続可能な社会に直列した事業活動が展開できるように、2019 年には azbil グループの道標となる企業行動指針と行動基準を改訂しました。また 2020 年には、azbil グループの SDGs 目標として事業で取り組む環境・エネルギーの分野でお客様の現場における CO₂ 削減効果を 340 万トン/年とする等の定量的指標を定めました。

azbil グループは、SDGs など社会課題の解決と持続的な成長の両立を目指し、オートメーション事業による持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を進めています。

■ 企業行動指針

私たちは、企業理念を実践するために、「世界のお客さまと未来を繋ぐ先進の架け橋」を目指し、5つの道標（行動指針）のもとに行動します。

1. 人と技術の「協創」による、安心・快適な社会環境の実現
2. 持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献
3. ステークホルダーとの長期にわたるパートナーシップの構築
4. 「多様な人材」とチームワークによるダイナミックな価値創造
5. 学習する企業風土とイノベーションによる成長



azbil の価値創造 | 価値創造モデル

時代とともに変化するお客様や社会の課題に対し、「計測と制御」のオートメーション技術と、常に人を中心に据えて課題を解決するという発想で、技術やソリューションを磨き上げてきました。現場に密着した一貫体制でお客様との価値創造を進めることこそが azbil グループならではの取組みであり、追求する姿です。

経営資本 (インプット)



人的資本

従業員 10,003人
(2021年3月末時点)
アズビル・アカデミー
年間受講者数(延べ人数)^{※1}
74,800名
公的資格(重点資格)^{※2}の
有資格者数 2,618名



社会関係資本

営業・サービス拠点 23カ国
国内14社、海外46社



知的資本

研究開発費 約560億円
(2021～2024年度計画)
研究開発拠点機能強化設備投資
約70億円(2021～2022年度)
特許 2,784件(2021年3月末時点)



製造資本

製造拠点 国内10工場、海外6工場



自然資本

エネルギー総消費量^{※3}
58,481MWh
水使用量^{※4} 107百万L



財務資本

発行体格付 A+(R&I)
(2021年3月末時点)

※1 講座にはCSR等の共通教育、個人選択の通信教育等を含み、受講者数にはグループ会社ほか協力会社・販売店等の社員を含む。

※2 公的資格のうち、事業運営等で重要度の高い資格の取得実績

※3 算定範囲:アズビル株式会社、及び連結子会社

※4 算定範囲:アズビル株式会社、国内連結子会社及び海外主要生産拠点



3つの成長事業領域での成長

- ◆ 長期目標(2030年度)
- ◆ 中期経営計画(2021～2024年度)(p15～)

持続的成長を支える基盤

- ◆ CSR経営(p65～)

環境(Environment)

- ◆ 環境への取組み(p67～)

グループ理念

azbilグループが提供する製品・サービスがお客様のお手元に届き、お客様と社会の課題解決に役立つことによって、持続可能な社会へ直列に繋がる貢献とともに、自らの継続的な成長、企業価値向上を実現します。新たな長期目標・中期経営計画で

は、サステナビリティを支える事業基盤の強化を進めるとともに、開発からサービスまでの一貫体制を活かし、3つの成長事業領域の拡大を加速するため、更なる経営資本の投入を行っていきます。

主な製品 (アウトプット)

ビルディング
オートメーションシステム



バルブ、
コントローラ

センサ・
計測機器

【お客様:建物オーナー、建設業】

◆ オフィスビル、研究所、工場、データセンター、官公庁建物、ホテル、ショッピングセンター、病院、学校、空港等



監視・
制御システム



バルブ、
ポジショナ

【お客様:製造業】

◆ 石油化学・化学、石油精製、電力・ガス、鉄鋼、ごみ処理・上下水道、紙パルプ、船舶、食品、薬品、自動車、電気・電子、半導体、各種製造装置

調節計、各種センサ



各種ガス・
水道メーター



医療用製造装置

【お客様:ガス会社、自治体、
医薬品製造、住宅メーカー】

◆ 都市ガス、LPガス、水道、医薬品、
一般戸建住宅

3つの成長事業領域

新オートメーション事業領域

環境・エネルギー事業領域

ライフサイクル型事業領域

オートメーション技術を共通基盤として新たな社会・顧客ニーズが生まれている様々な市場に展開可能です。

3つの成長事業領域での事業展開を核に、顧客ニーズ・新たな社会課題等の事業環境の変化を捉え、国内外において新製品・サービスを投入しBA、AA、LAの3つの事業での成長を実現

社会 (Social)

- ◆ 品質保証・安全 (p71)
- ◆ CSR調達 (p72)
- ◆ 人財: 人的資本への取組み (p73~)
- ◆ 知的財産戦略・ブランドマネジメント (p75)
- ◆ コンプライアンス・内部統制 (p76)
- ◆ リスクマネジメント (p77~)
- ◆ 価値協創へ繋がるステークホルダーとのコミュニケーションへ (p91~)

ガバナンス (Governance)

- ◆ コーポレート・ガバナンス (p79~)

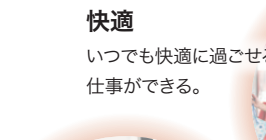
私たちは、「人を中心としたオートメーション」で人々の安心、快適、達成感を実現するとともに、地球環境に貢献します。

azbilグループの提供価値 (アウトカム)



安心

安心して、健康に暮らせる、仕事ができる。



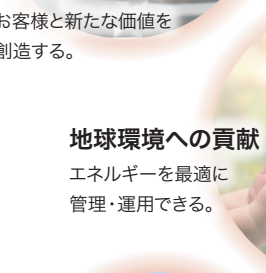
快適

いつでも快適に過ごせる、仕事ができる。



達成感

お客様と新たな価値を創造する。



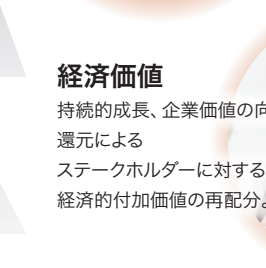
地球環境への貢献

エネルギーを最適に管理・運用できる。



事業を通じたSDGsへの貢献

- 環境・エネルギー
- 新オートメーション
- サプライチェーン、社会的責任
- 健全経営、学習企業体



経済価値

持続的成長、企業価値の向上、還元によるステークホルダーに対する経済的付加価値の再配分。

社会や事業環境の変化をとらえ、azbil が価値創造に向けて取り組んできたこの1年の活動内容をご紹介します



バリューチェーン・全社機能強化

- 中国大連生産子会社に新工場棟建設を決定—グローバル生産体制の規模を拡大・強化 (2020年7月)
- アズビルタイランドが Solution and Technology Center を開設 —IoT・AI を活用した次世代インテリジェントサービスを提供 (2020年8月)



工場棟イメージ図

- シンガポールのキャピタルランド主導のスマートアーバン共同イノベーションラボに参加 (2021年1月)
- 研究開発拠点「藤沢テクノセンター」に2棟の新実験棟の建設を開始 —新しいオートメーションの需要に応えるグループの中核研究開発拠点として整備 (2021年4月)

3つの成長事業領域での進展

■ 製品・サービス

- 「パンデミック対応空調システム」のソリューション事業で医療従事者の安全・安心に貢献 ―with コロナ社会の感染症対応 (2020年6月)
- 即座に顔を認識、高精度で検温する「AI温度検知ソリューション」を販売開始 ―with コロナ社会の感染症拡大防止に貢献 (2020年6月)
- 手書きの記録作業を簡単にデジタル化するクラウドサービスの正式版を販売開始 ―with コロナ社会の業務デジタル化に貢献 (2020年7月)
- 各種制御デバイスの情報連携をプログラムレスで実現する通信ゲートウェイを機能強化 ―工業用バーナ装置のIoT化を支援 (2020年10月)
- プラントで稼働するバルブの健康診断をクラウドで提供し、生産設備の安定化・保安力強化に貢献する「Dx Valve Cloud Service」を販売開始 (2020年11月)
- 重要プロセス変数変動監視ソフトウェア ACTMoS™ をグローバルに販売開始 ―未来を予測することで、製造現場の監視力を強化 (2020年12月)
- オンライン異常予兆検知システム BiG EYES™、新たに製造機械メーカー向けに導入支援付きライセンスを販売開始 (2021年3月)
- エネルギー管理領域における協業の事業コンセプト「DX-EGA」について ―エネルギー管理領域における次世代に向けた新たな取組みを推進 (2021年3月)
- ニューノーマル時代に向けた働き方やオフィス利用の多様化にも対応する新空調システムを販売開始 (2021年3月)
- シンガポール経済開発庁(EDB)の支援のもと海外向け統合型ビルディングマネジメントシステムのデジタルソリューションの開発を開始 (2021年6月)



- アズビルが、8年連続で工場・事業場などの省エネルギー事業を支援する「エネマネ事業者」に (2021年6月)

■ 納入実績

- バッチプロセス向けオンライン異常予兆検知システム BiG EYES™ R200 を株式会社カネカへ納入 ―化学メーカーを中心に半年で10システムを受注 (2020年6月)
- クラウド型バルブ解析診断サービス「Dx Valve Cloud Service」を三菱ケミカル株式会社に提供開始 (2021年3月)

■ 製品・サービスへの評価

- 世界的なデザイン賞「Red Dot Award 2020」を受賞 (2020年4月)
- クラウド運用センターが ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) の国際規格認証を取得 (2020年7月)
- アズビルの調節弁メンテナンスサポートシステムが、中国の自動化・スマート製造分野のメディア「中国工控網」主催の年次表彰で工業制御ソフトウェア・ユーザー賞を受賞 (2020年11月)
- FROST & SULLIVAN 2020 東南アジア ビルディングオートメーションシステムズカスタマー バリュアリーダーシップアワードを受賞 (2020年12月)



■ SDGs への取組み

- SDGs 目標の定量指標を策定 (2020年8月)
- 新しい指標を策定 (2021年5月)

持続的成長を支える基盤< ESG への取組み >

■ 環境への取組み

- 経団連「チャレンジ・ゼロ」宣言への参加を表明 (2020年6月)
- 経団連生物多様性宣言・行動指針 (改定版) への賛同を表明 (2020年6月)
- CDP Climate Change 2020 B 評価
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 主なリスクと機会に基づく評価・試算
- 温室効果ガス (GHG) 排出削減目標 (2030年) 強化。事業活動に伴う GHG 排出量 (スコープ 1+2) を 30% から 55% 削減へ (2017年基準) ―2021年8月 SBT (Science Based Targets) に認定

■ 健幸経営への取組み

- グローバル執行役員アンジュ・ジャスワルがシンガポールのテクノロジー分野で活躍する女性 100 人に選出 (2020年11月)
- 消費者庁の「内部通報制度認証」を取得 ―「なんでも相談窓口」を通じて健幸経営を推進 (2020年12月)
- 女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定 (最高位)」認定企業 (2018年12月)
- 子育てサポート企業「くるみん認定」を取得 (2021年2月)
- 「健康経営優良法人 2021」認定 (2021年3月)

■ 社会・人権への取組み

- 新型コロナウイルス感染拡大ならびに豪雨被害に対して、国内外へ義援金を拠出 (2020年6月、7月)

- 社員参加の自主的な社会貢献への取組みとして、azbil みつばち倶楽部が社会福祉団体などへ支援 (2020年11月)
- 「国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)」署名 (2021年4月)



■ コーポレート・ガバナンス強化

- スキル・マトリックスを開示 (2021年6月)
- コーポレートガバナンス・コードの改訂や会社法改正の趣旨を踏まえた開示拡充

■ 主要インデックスへの採用状況

- 年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が選定した4つのインデックス
 - FTSE Blossom Japan Index
 - MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数
 - MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)
 - S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- 「2021年ブルームバーグ男女平等指数 (2021 Bloomberg Gender-Equality Index)」に選定



【その他インデックスへの採用状況】

- FTSE 4Good Japan Index
- MSCI Japan 指数
- JPX 日経インデックス 400



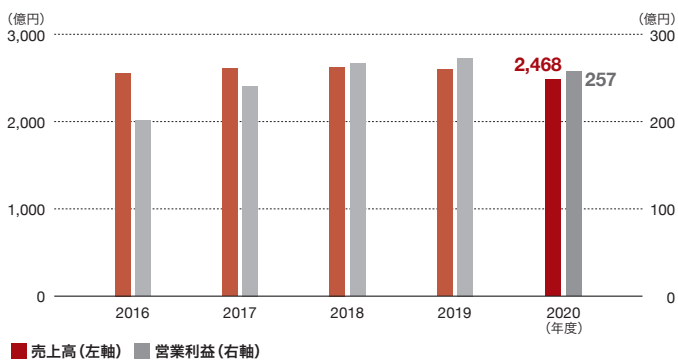
注:文中()内の日付は発表時の日付を表します。

azbil の価値創造 | 財務・非財務ハイライト

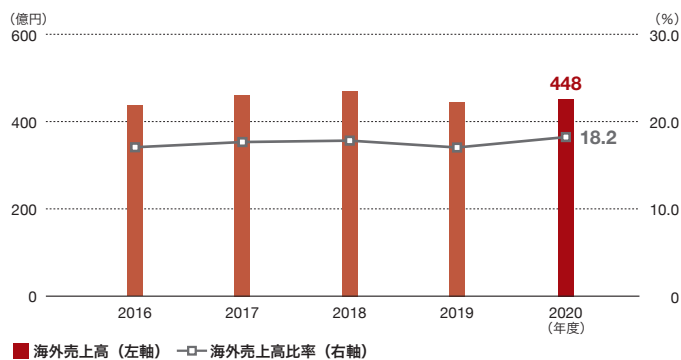
アズビル株式会社及び連結子会社

財務ハイライト

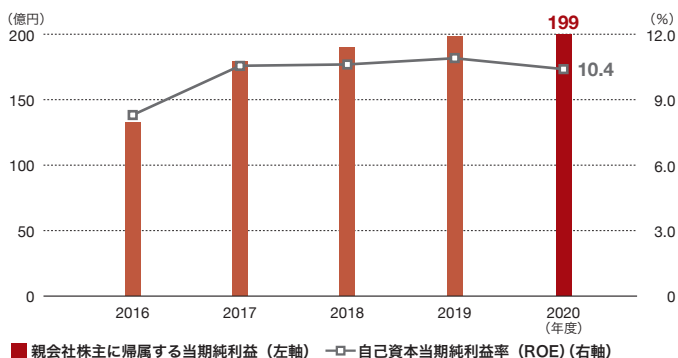
売上高／営業利益



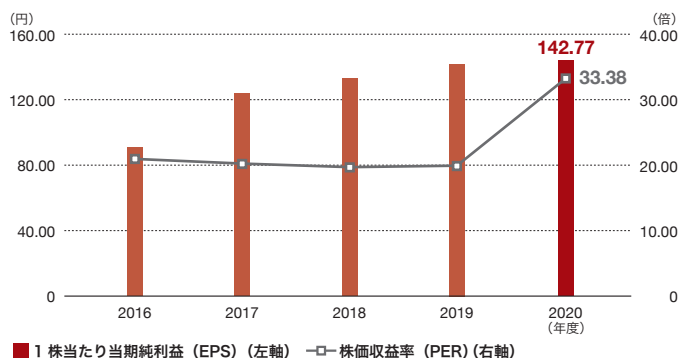
海外売上高／海外売上高比率



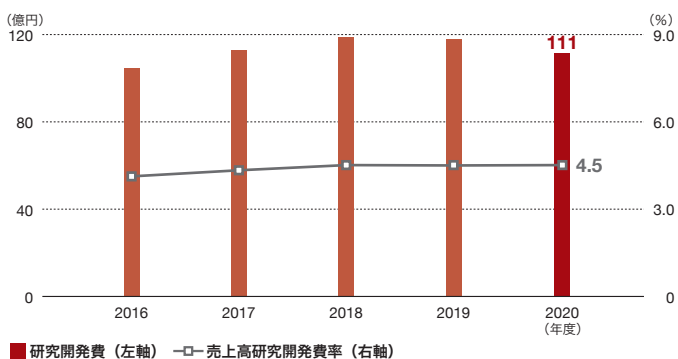
親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本当期純利益率 (ROE)



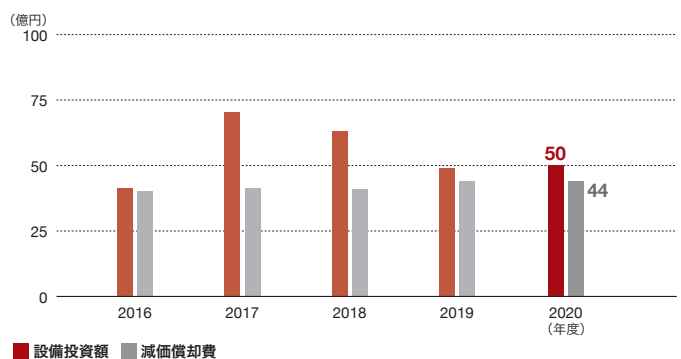
1株当たり当期純利益 (EPS) / 株価収益率 (PER)



研究開発費／売上高研究開発費率

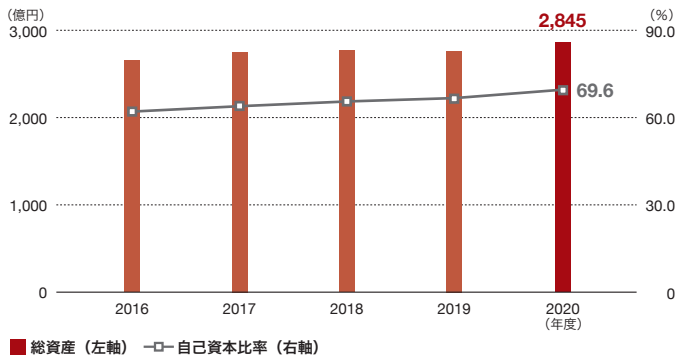


設備投資額／減価償却費

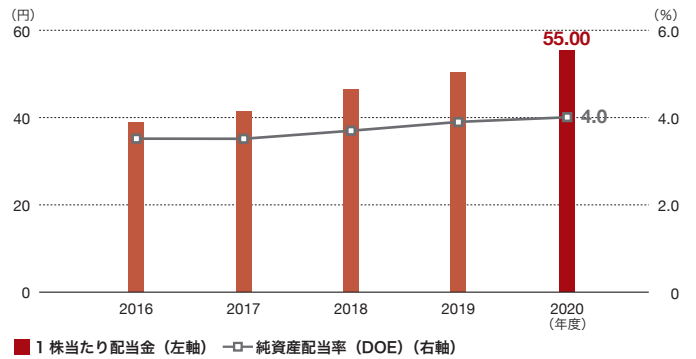


2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
1株当たり当期純利益 (EPS) 並びに1株当たり配当金は、株式分割の影響を考慮した数値で表示しています。

総資産／自己資本比率

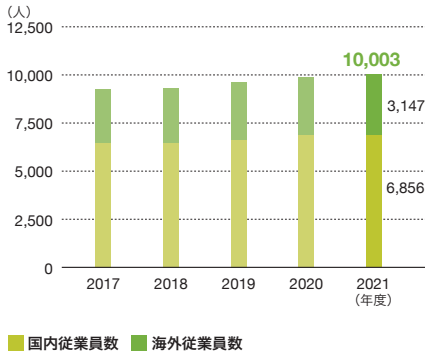


1株当たり配当金／純資産配当率 (DOE)

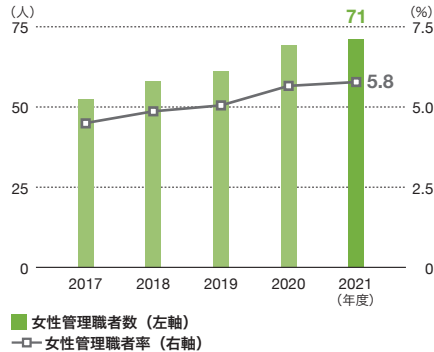


非財務ハイライト

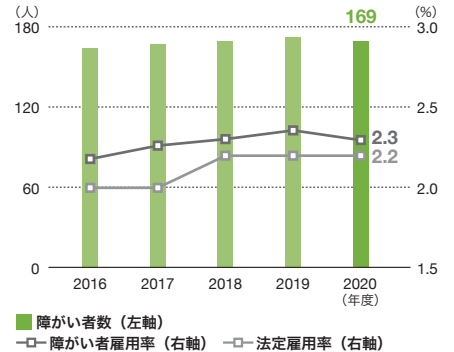
連結従業員数 (3月31日現在)



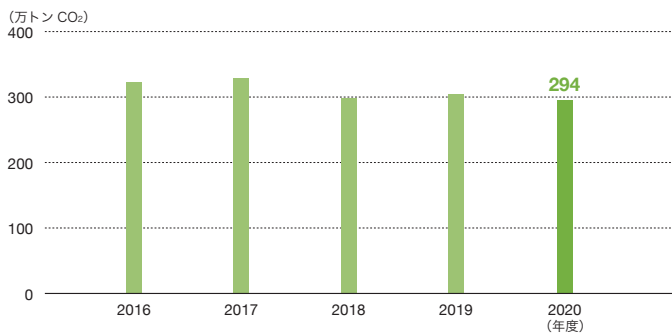
女性管理職者数／ 女性管理職者率 (アズビル株式会社 4月1日現在)



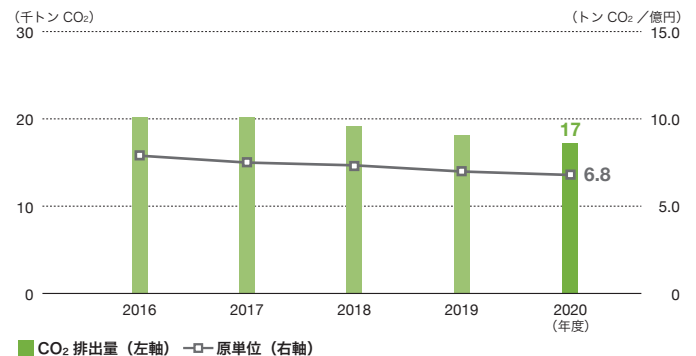
障がい者雇用率



お客様の現場におけるCO₂削減効果 アズビル株式会社及び海外現地法人



CO₂排出量 (スコープ1+2) / 原単位 アズビル株式会社、国内連結子会社及び海外主要生産拠点



※ 2018年度に推計手法に関する第三者レビューを実施しています。